

## 平成 28 年度町政懇談会会議録

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 26 日 (土) 10:00~12:00
- 2 場 所 双葉町いわき事務所 (大会議室)
- 3 出席者 伊澤町長、金田副町長、半谷教育長、武内総括参事、平岩復興推進課長、板倉秘書広報課長、猪狩建設課長、橋本健康福祉課長、志賀生活支援課長、愛沢住民生活課係長、横山住民生活課係長
- 4 町民出席者 21人

### 5 町長あいさつ概要

本年 3 月で避難指示解除準備区域の浜野、両竹地区の本格除染が終了するとともに「双葉町内復興拠点基本構想」が決定され、双葉町も具体的な復興のまちづくりに向けた拠点整備が開始できる環境が整った。

今年度まずは、双葉町の働く拠点として、産業用地や共同事業所等を確保し、町内事業者の事業再開や企業誘致の受け皿とするため、中野地区復興産業拠点の基本設計、測量地質調査を実施している。

### ○町内復興の取り組みについて

- 1) アーカイブ拠点施設については、8 月 29 日に県の新生ふくしま復興推進本部会議において要望どおり双葉町への整備が決定した。県と十分な協議を重ね未曾有の複合災害の情報発信拠点にふさわしい施設となるよう整備を求めている。県では、東京オリンピックが開催される平成 32 年までの完成を目指している。
- 2) 東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けた海岸堤防の災害復旧工事が福島県により着工されている。平成 30 年度に完成予定であり、完成すれば津波のリスクが大幅に軽減され、今後の町の復旧復興に弾みがつくものと確信している。
- 3) 復興祈念公園については、昨年 4 月に福島県が双葉町、浪江町の沿岸部(中野・両竹地区)に設置することを決定した。
- 4) 寺沢地区に設置される復興 IC については、平成 31 年度の供用開始を目指し、除染が完了し、説明会を経て用地取得手続きを進められるよう作業を進めている。  
また、復興 IC のアクセス道路となる県道井手長塚線、町道久保前・中浜線ほか 2 路線を町の復興シンボル軸と位置付け早期改良整備について県に求めている。
- 5) 復興まちづくり計画(第二次)を策定するにあたり、町民の皆さまのご意見を計画に反映させるため、復興町民委員会を開催し、第一次計画の二本の柱である「町民一人一人の復興」と「町の復興」に対応する形で「人の復興部会」と「町の復興部会」を設置し、これまで 3 回にわたり議論を重ねてきた。今後は、復興町民委員会でより具体的な検討を重ね、年内までに復興まちづくり計画(第二次)の策定を行い町が抱える諸課題の一つ一つに確実に取り組み、目に見えるようにしていく。

また、このような復興まちづくりの取り組みについて、事業の迅速かつ確実な具体化を図るため、9 月 6 日に、町が行う復興拠点等の整備に係る計画、調査等に

関し、技術的な助言や提案、ノウハウの提供その他の技術支援を受けることを内容とした「双葉町復興拠点の整備等の復興まちづくりの推進に向けた覚書」を独立行政法人都市再生機構と取り交わした。

○除染を含めた帰還困難区域の取り扱いに関する考え方について

帰還困難区域を有する市町村の要望や与党の提言（「東日本大震災復興加速化のための第6次提言～H28、8、24自民党、公明党」）を受けて、国の原子力災害対策本部及び復興推進会議において帰還困難区域の取り扱いに関する方針が8月31日に決定した。

これによれば、町は帰還困難区域内に復興拠点を設け、整備計画を策定、国は、関連する法制度の整備を行うとともに平成29年度から必要な予算を確保し、地域の中でも先行して整備を進めることとされている。

○中間貯蔵施設について

- 1) 町民会議や行政区長会等でご議論いただいた県内の教育施設の除染廃棄物の町有地への一時仮置きについては、計画どおり伊達市、相馬市、新地町、本宮市、二本松市、桑折町、国見町からの搬入を行っている。
- 2) 中間貯蔵施設の地権者対応として、環境省では地権者の方に同行いただき土地及び物件調査を行っており、9月30日現在、166名の町民が契約したとの報告を受けている。今後も環境省に対して地権者への丁寧な説明を引き続き強く求めていく。
- 3) 中間貯蔵施設の一部本格施設の着工については、環境省から、構造や放射線安全に関する基本的な内容について説明を受けており、9月15日の議会全員協議会でも議会として説明を受けている。町としては中間貯蔵施設の整備事業が安全かつ円滑に実施されるよう、今後も環境省から施設の詳細な内容等について確認していく。
- 4) 「中間貯蔵施設整備等影響緩和補助金」いわゆる「生活サポート補助金」が今年度から事業を開始する。避難生活により発生する移動経費や就業に向けての職業訓練や資格取得のための受講費、風評被害緩和対策としての福島県内産品の購入費、高齢者等の日常生活に係る交通費の支援等の事業を実施し、町民の皆さまが今後10年間の経済負担を少しでも軽減できるよう運用するもの。

○一時帰宅時の休憩施設について

9月10日から双葉駅に隣接するコミュニティーセンター内にも一時立入時の休憩所が開設。一階の多目的スペースを開放し、水洗式トイレや飲料水の提供が可能になっているので、一時帰宅の際には利用してほしい。

また、中野地区にある除染請負業者の現場事務所の一角に町の休憩所「双葉町ふれあい広場」も設置してあるので休憩等に利用していただきたい。

○東電賠償について

東電賠償の未請求者は48名に減少している。まだ未請求者がいることから、東京

電力に対して未請求者解消を要望しているところです。さらに、町民の被害実態に沿った、迅速・確実・十分な賠償の実施を引き続き求めていく。

#### ○復興公営住宅について

復興公営住宅の第4期追加募集までの入居決定状況については、7月末現在、県内31カ所の復興公営住宅で238戸、372人となっている。

双葉町民が専用で入居する最大の戸数を確保した、いわき市勿来酒井地区に平成29年度後期入居開始を目指して建設を開始している復興公営住宅は、全体整備計画戸数180戸のうち、第4期追加募集を行った木造戸建て住宅72戸に対して69戸の入居が決定している。今後も引き続き、県とともに連携して復興公営住宅への入居促進に取り組んでいく。

施設エリアには、双葉郡立診療所、高齢者サポート拠点、集会所、広場、公園、共同店舗も併設して整備予定。

いわき市勿来酒井地区の基盤整備工事については、8月末現在の進捗率が30%になっているとの報告を受けている。

#### ○その他

1) 現在、医療費の一部負担等の免除、高速道路通行料金の無料措置が実行されているが、来年度以降も引き続き継続されるよう、国、及び関係機関に働きかけていく。

#### 2) 埼玉県加須市との友好都市盟約締結について

埼玉県加須市におかれては平成23年4月1日から約1,400人の双葉町民と役場機能の設置を受け入れてくれるとともに、物心両面にわたり支援をしていただいた。役場機能をいわき市に移し、旧騎西高校を閉鎖した後も騎西総合支所に埼玉支所を置かせていただき、現在も約500人が加須市で避難生活を送っており、継続的な支援をいただいている。このようなご縁を大切に、今後も加須市との交流の輪を広げ、友好の絆を一層強くすることを目的として、11月3日、いわき市植田の八幡台「やまやまや」において大橋良一加須市長様はじめ市議会議員の皆さまにもご臨席いただき、出席された皆さまの見守る中、友好都市の盟約を締結した。そのときの様子は双葉町公式チャンネル ユーチューブ「ニュースふたば」でも動画を見ることができる。

#### 6 町からのお知らせ

- (1) 双葉町復興まちづくり計画（第二次）の策定状況について説明（平岩復興推進課長）
- (2) 公立学校の状況について説明（半谷教育長）

#### 7 懇談会概要

(男性)

中野、浜野地区の復興拠点について、産業誘致やインフラ整備が必要になるが、どのように行われているのか。また、両竹地区との連携は難しいのか

(伊澤町長)

両竹地区の海岸部の除染が終了し、地権者の理解を得ながら整備が進んでいる。復興拠点については地権者に住民説明会を実施している。両竹地区については、再生可能エネルギーの話があり当初の目的よりは縮小されているが、現在進行している。また、水田再生の活用拠点として取り組みを行っている。次世代園芸チャレンジ拠点として、農地を利用しなくても農産品、花卉栽培等を行える新たな取り組みを検討している。

(猪狩建設課長)

インフラ復旧について、中野、中浜、両竹地区は、海岸堤防について、平成 30 年度完成を目指している。また、防災林については平成 32 年度に完成予定。前田川河川復旧は、平成 30 年度を予定している。県道長塚請戸浪江線については、災害復旧を進めており平成 28 年度完成予定。県道広野小高線（浜街道）は、災害復旧が平成 30 年度完成予定。復興シンボル軸について国道 6 号、復興 I C、浜街道、中野地区の復興産業拠点を結ぶ道路であるが、全長 7 キロで平成 31 年度に完成を目指している。上水道に関して、中野の新産業拠点は平成 30 年度一部供用開始なので送水するために、渋川中田宮田橋を通るルートで設計している。次年度に送水管の設置を予定している。平成 30 年度に水が使える状態になる。下水道も合わせて平成 30 年度に供用開始を予定しているため、避難指示解除に向けて整備を行っている。

(男性)

復興シンボル軸は、どこが引っ掛かるのか。また、法線はどうなるのか。

(猪狩建設課長)

復興シンボル軸は復興 I C から全長 7 キロの道路であり、国道 6 号線の西側は県道であり、県が整備、東側は町道のため、町が整備する予定だったが、次年度から全線に渡り県が整備することとなった。法線だが、国道 6 号線タッチ部分は国土交通省と協議しているところである。法線については、現時点で示すことができない。大門橋東側の町道南側の町有地を活用し、道路整備を行っていく。

(男性)

原発の線量について、双葉と浪江に対応の違いがあるかと思われるが、同じ双葉郡なので連携したらどうか。

(伊澤町長)

町長同士の連携に取り組んでいるところである。賠償の問題対応については、各自治体それぞれ状況は違うが、共通する部分については連携しているところである

(男性)

津波の到達地点の標識について、伝えていかなければならないことなので、地区ごとにぜひ設置してもらいたい。アーカイブ拠点施設は県でつくとあるが、地元の要望は上げてもらえるのか。また、農地の現状を見ると、田畑には柳の木が生えているため、山林に近い状態である。浜野、両竹地区は機械で除染されたことで、農地の境界がわからない部分があるが、今後どのようにして境界を定めていくか。

(伊澤町長)

津波到達地点について、将来的に忘れないために拠点整備の中で検討していく。アーカイブ拠点施設について、当然町民の意見を取り入れていく。柳の木等、農地に関して、将来計画を立て慎重に取り組みをしていく。

(武内総括参事)

農地の境界について、両竹地区が具体的にどうなっているか連絡いただければ、国と共に対応したい。

(男性)

農地等土地に関して、避難地域全体の問題となるので、きちんとどうするのか国に伝えてもらいたい。

(武内総括参事)

環境省と問題提起しながら対応していきたい。

(男性)

復興拠点の基本構想について、何年くらいで行う予定か。個人の宅地についてはどうか。

(伊澤町長)

駅西側に除染が決定し、除染が始まった。個人宅に関しては、個人の了解を得ながら行っている。5年をめどに行っていく。

(男性)

5年をめどに除染を完了するということか。それとも個人の宅地の基盤を整備するということか。

(伊澤町長)

5年で除染するということであり、まず家屋の調査をしていただきたい。補修できるのか、解体するかしかないか、皆さんには、解体を含めた取り組みをしていかなければならない。そのため、皆さんに説明をしながら進めていきたい。生活再建支援金という国の制度があるので、先に解体してしまうと制度が適用できない可能性があるので、まずは調査をしてもらいたい。

(男性)

市街地ゾーンとまちなか再生ゾーンの考えを教えてください。

(金田副町長)

国が8月末に帰還困難区域の中で復興拠点認定をし、整備する方針となった。平成29年度の早い時期からおおむね5年で整備できるところを集中的にやっていく。どの地点を整備していくのか町として打ち出しは国との協議となる。町としては駅西と駅東を中心とした整備を考えている。

(男性)

要望であるが、テレビに映っているところだけ、防塵をマスクするのではなく、きちんとマスクをつけるなら付けてもらいたい。

(男性)

帰宅困難区域の中で区域編成せずに復興拠点をつくるということは、年間 20 シーベルトの国の基準で区域分けされたのに入る時の装備が違うのではないか、そこに生活圏をつくることはまずいのではないのか。いわきで日常生活を送るような服装でいいのか。

(町長)

出入りに関しては、被ばくを防ぐために取り組みをしていく。ご指摘あった点について、真摯に対応したい。

(男性)

檜葉町の水道管について、水道企業団が毎日線量を確認していたようだが、末端の水道工事者は水道管の中に放射性物質が入ることを想定せずで作ってしまっているのではないか。

(町長)

檜葉町の水道に関して、線量を確認し、人体に影響ない値が出ていると報告は受けている。

(男性)

先日の福島県沖地震で、福島第一原子力発電所にて放射線を閉じ込めるフェンスが 1メートルほどの津波で破損してしまった。震災時に造った仮設の防潮堤のままで安全対策では東日本大震災のような津波ではまた同じようなことになってしまうのではないか。

(町長)

きちんと対応するよう国や東電には要求したい。

(男性)

電源確保について、非常用電源の安全性は誰が確保して、万が一の時は、誰が責任をとるのか教えていただきたい。

(伊澤町長)

電源確保についても、国や東電に安全管理を徹底していくよう要求していく。

(男性)

これ以上計画が遅れると、町職員の構成比を考えると双葉町出身者が少なくなっているので、よろしくお願ひしたい。

(平岩復興推進課長) 復興公営住宅の募集について説明。

(板倉秘書広報課長) タブレットコミュニティ集会について説明。

(志賀産業課長) 野生鳥獣捕獲について説明。

(半谷教育長) 中学生海外派遣事業について説明。

